

こがねい 放射能測定室だより

発行:小金井市放射能測定器運営連絡協議会

今回は、昨年まで活動に参加してくださっていた米国カリフォルニア州立大学・アーバイン校の韓国入留学生のキム・イナさんに、協議会の活動に参加してみての経緯や感想などのお話をうかがいました。

Q:はじめて測定室を訪ねてきてくださったのはもう4年以上前になりますね。どういった経緯でこちらに来ていただいたかをお聞かせください。

初めて小金井の測定室を訪問したのは、2019年の夏でした。私は文化人類学の博士課程の学生として、3.11以降の市民放射能測定活動と放射能に関する環境問題について研究したいと思い、取材のため測定室に伺いました。そこでメンバーのみなさんに測定器を見せていただきながら、協議会の歴史や運営方法などについて解説していただきました。

実は、小金井とまったく関係のない自分が突然メールをお送りして大丈夫なのだろうかと少し心配だったのですが、とても親切にご対応いただいて、本当に嬉しく思い、ここでぜひ調査ができればと考えました。

その後、当初は2020年の夏から1年間、小金井で調査する予定でしたが、コロナ禍で日本に入国が難しくなったため、2021年の10月から日本に滞在し、約9ヶ月間小金井の測定室でオンラインミーティングなどにも参加しながら、測定活動のお手伝いをしました。

Q:キムさんは他の測定所の活動にも多数参加し、研究されていると聞いていますが、小金井の測定室と、他の測定所との違いについて教えてください。

小金井の測定室の特徴の一つは、2011年の東日本大震災のずっと前、チェルノブイリ(チェルノブイリ)の原発事故の後設立されたということです。小金井の測定室以外、今まで日本の19ヶ所の市民測定室を訪問して取材をしましたが、日本で東日本大震災以前に設立された市民放射能測定室はかなり希少であるということがわかりました。

東電福島第一原発事故が起こった後、日本各地では、国の放射能汚染の基準値だけでは食品安全と子どもの健康をきちんと守られないかもしれないという心配から、様々な放射能測定室が設立されました。

福島県外、北海道から九州まで、放射能汚染が大きな環境問題として認識され、測定室の確保が必要になりました。しかし市民は、科学者ではないので、どこから始めれば良いのか手探り状態からのスタートでした。

そんな中、1990年から活動している小金井市放射能測定室の存在は、他の測定室の設立の参考になったようです。小金井の測定室のみなさんのところには震災直後、国内はもちろん、他の国からのメディアや研究者、市民団体からの取材が多くあったようです。私が取材した他の測定室のみなさんからもお聞きしましたが、震災の直後、小金井を訪ね、測定室の運営や測定方式などをお聞きして参考にされたそうです。



2019年夏 キムさんの測定室来訪時の様子

小金井の測定室は市が支援し、市民が運営する体制というところも他と異なる点です。放射能測定は多額の予算が必要な事業なので、市民の寄付と会費等だけで運営される市民測定室は、活動の維持が困難な場合があります。東電福島原発事故から12年ほど経った現在は、測定の需要も少なくなることで、さらに困難なようです。

小金井市では2019年に新しい測定器に更新され、運営費、測定場所に関しては心配がありません。ただし、行政との関係性が重要なので、測定結果が基準値を超えた時など、さまざまな問題を行政と相談しなくてはならないというプロセスがあります。こういった時は、行政側でより精度の高い測定器によるクロスチェックも行われています。

また、実際に測定に参加する会員の方々は、放射能問題だけではなく、小金井市の様々な問題に関心をお持ちになり、活発に地域の活動に参加することも特徴だと思いました。みなさんご自身のお仕事や他の市民活動でお忙しい中、放射能測定活動もボランティアできちんと責任を持って活動されていることを、素晴らしいと思いました。

小金井の測定室のもう一つの特徴は、食品だけを測定するということです。他の測定室は食品以外、土、お水、布、植物等、たまには、乳歯や人の骨さえ測定するところもありますが、小金井の測定室は市の担当部署が経済課であり、食品消費者を対象としているためです。

また他の測定室と異なる点としては、測定容量の違いがあります。他の測定室は2Lか1Lで測定するところが多いのですが、小金井の測定室では、200ccなので、実際に食べたいものを少量持参して測定ができるので、利用者の負担が少ないことが特徴です。これも食品だけを対象にするからだと思います。

Q. キムさんのこれからの展望や希望はなにかありますか？

東電福島原発事故から12年経ち、残念ながら全国の測定室はだんだん減ってしまい、残っている測定室も運営に困ることがあるのを目撃しています。小金井の測定室もこれまで運営や維持に様々な困

難があったと聞きました。チョルノービリ(チェルノブイリ)原発事故後、今まで存続しているのも奇跡かもしれません。しかし、放射能問題はまだ消えていません。セシウムの半減期は約30年ですし、放射能の体に及ぼす影響もまだはっきりわからず、放射性廃棄物の処理問題も未解決です。そのため、市民の放射能測定活動は大変重要です。市民の放射能測定活動が必要な理由は、国の基準値ののった放射能測定のデータだけでは現実の一部しかわからないためです。測定の下限值を基準値より下げて市民に公開できる測定を行い、データを作ることが大事だと思います。

また、これから日本国内の様々な放射能測定室との連携や情報の共有も必要ではないかと思えます。データが多ければ多いほど、もっと詳しく今の汚染の状況が理解できますし、放射能が食品以外環境に及ぼす影響もわかります。日本の放射能測定活動は、他の国の今後の参考になることも多いと思いますので、民間の環境団体、政府も含め、できれば国際的な連携ももっとあったら良いと思います。放射能汚染は日本だけの問題ではなく、原発や核の問題はどこでもあるからです。



オンラインミーティングにも参加 左下がキムさん

ありがとうございました。キムさんの活動はまさしくそういった国際連携のきっかけになるものですね。長い間協議会の活動にも参加してくださり、本当にありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。

食品放射能測定結果

【2022年1月～2023年4月】

測定日	測定品目	産地	測定結果(Bq/kg)	
			セシウム137(Bq/kg)	セシウム134(Bq/kg)
2022年1/14	菌床しいたけ	栃木県	15.03	N.D.
2/4	原木しいたけ	岩手県	8.28	N.D.
2/25	なめこ	福島県	11.21	N.D.
3/19	ぬか	静岡県伊東市	28.08	N.D.
7/29	乾燥しいたけ(菌床)	福島県伊達市	19.81	N.D.
9/16	まいたけ	栃木県	10.87	N.D.
2023年4/7	ツクシ(乾燥)	福島県伊達市	98.74	N.D.
4/21	まいたけ(天日干し)	栃木県那須塩原市	36.93	N.D.
4/28	水戻まいたけ	栃木県那須塩原市	22.87	N.D.

測定器:シンチレーション検出器:CANBERRA 802シリーズ 3×3インチ MAC(マルチチャンネルアナライザ):Osprey
測定核種:セシウム134, 137 測定容量:200ml 測定時間:6時間

※検体は洗浄・未洗浄に関わらず依頼者が持ち込んだ状態で測定しています。

■N.D. (検出限界値未満)検体

2022年 1月	/7 ほうれん草(埼玉県)、/21 サツマイモ(福島県伊達市)、/28 チヂミ粉(韓国)	9月	/2 手作り梅シロップ(群馬県高崎市)、/9 ひじき(日本)、/30 しいたけ(群馬県)
2月	/18 菌床しいたけ(群馬県上野村)	10月	/7 ミルクココア(不明)、/14 サトイモ(福島県郡山市)、/21 ミズナ(福島県伊達市)、/28 はなびら茸(群馬県前橋市)
3月	/4 藍の薑油炒め(千葉県市原市)、/11 赤ワインビネガー(フランス)、/25 なめこ(新潟県)	11月	/4 ヤリイカ(宮城県)、/11 レンコン(茨城県)、/18 ナス(福島県)、/25 むかご(長野県)
4月	/1 わかめ(岩手県)、/8 しいたけ(福島県)、/15 大豆ミート:大豆(インド)、/22 白米(福島県)	12月	/2 玄米(千葉県市原市)、/9 ブロccoli(東京都八王子市)、/16 ゆで人参(市内)、/23 大豆水煮(福島県伊達市)
5月	/6 まいたけ(新潟県)、/13 ウド(福島県)、/20 干しいたけ粉末(日本)、/27 長芋(青森県六ヶ所村)	2023年 1月	/6 しいたけスナック(中国)、/13 干柿(群馬県渋川市村上)、/27 きのことオリーブのマリネ:ブナシメジ(日本):他(不明)
6月	/3 太刀魚(茨城県)、/10 生銀鮭(宮城県)、/17 小松菜(茨城県)、/24 キュウリ(埼玉県)	2月	/3 菌床生しいたけ(福島県いわき市)
7月	/1 菌床しいたけ(秋田県)、/8 昆布(北海道厚岸)、/15 紫タマネギ(福島県伊達市)、/22 モーカさめ切り身(福島県伊達市)	3月	/4 ヤーコン(福島県伊達市)、/10 さば味噌煮缶(日本)、/17 ぶなしめじ(群馬県榛東村)、/24 モーカザメ(宮城県)、/31 しいたけ(福島県)
8月	/5 まいたけ(新潟県)、/12 梅の実シロップ漬(東京都)、/19 ソイミート(不明)、/26 ニラ(市内)	4月	/14 煎茶:狭山茶(埼玉県)

小金井市と協働で、市民が食品の放射能を測っています

食品放射能測定

検体募集中

小金井市に在住・在勤・在学の方で、気になる食品の放射能測定をしたい方はどなたでも無料で利用できます。

はかって安心!

食品放射能測定

小金井市在住
在勤・在学の方

無料

測定のお申し込み
問い合わせ



小金井市役所経済課
消費生活係

042-387-9831

- 検体は食品にかぎります。
- 一回のお申し込みにつき、お一人2検体までとさせていただきます。(それ以上の場合は次の月をお願いいたします。)
- 検体は200mlをミキサーなどでなるべく細かく粉碎し、ビニール袋に入れて指定の測定日の朝9時に上之原会館にお持ちください。(測定室で粉碎も可能です)
- 現在の測定日は毎週金曜日、1日1検体を測定しています。
- 検体の受け渡し日時についてご都合が悪いという場合は別の受け渡し方法も調整いたしますので、ご相談ください。下記に記載のメールでもご相談は受け付けます。
- 測定結果は後日、経済課より指定の場所にてお渡しとなります。郵送でお送りすることも可能ですので、お知らせください。
- 測定検体は腐敗しないものであればお返しすることも可能です。受け付け時にお知らせください。

測定場所:

小金井市立上之原会館
武蔵小金井駅北口5分
〒184-0004
東京都小金井市本町5-6-19

■ 測定器

シンチレーション検出器: CANBERRA 802 シリーズ 3x3 インチ
MCA (マルチチャンネルアナライザ): Osprey
測定核種: セシウム 134, 137 測定時間: 6 時間



こがねい放射能測定室 会員募集中!

一緒に測定活動に参加してみませんか

まずは下記までご連絡いただき、お気軽に測定室やミーティングをご見学ください。

小金井市からの委託を受けて、市が購入・維持管理する放射能測定器による食品の放射能測定を、市民ボランティアが行っています。依頼を受けての放射能測定のほか、放射能に関連する講演会の開催なども行い、広く市民の方と学ぶ場を持つための活動も行っています。測定活動を通し放射能に関する知識も深まります。ホームページ、Twitter、Facebook もご覧ください。

市民が
測っています!

測定結果はホームページ、SNSでも公表しています
小金井市放射能測定器運営連絡協議会
e-mail: koganei.sokutei@gmail.com

公式
HP



<https://hosyanousokuteishitsu-koganei.jimdofree.com>